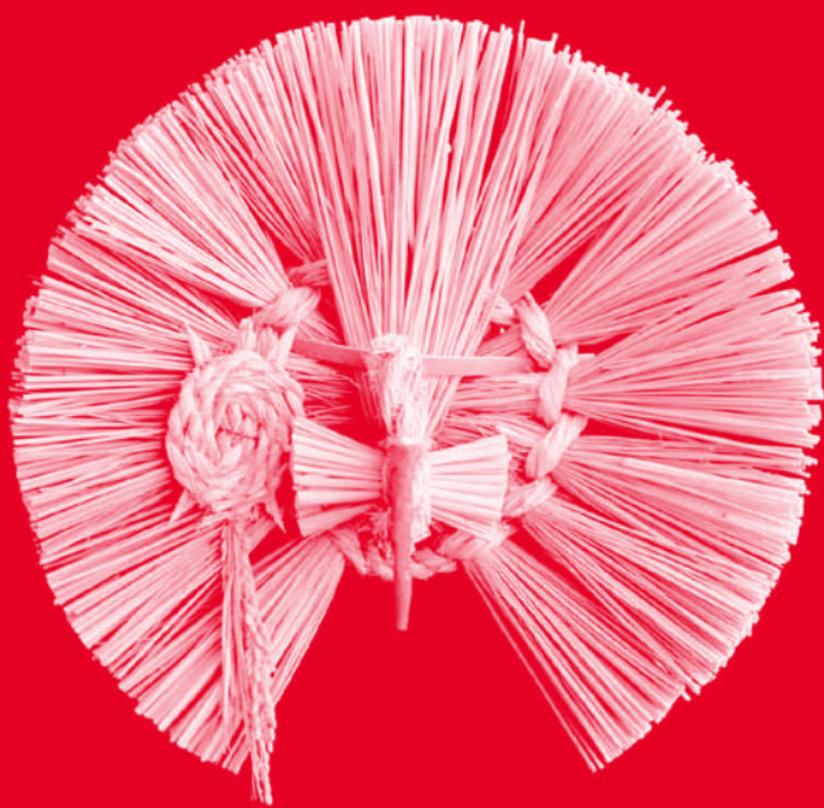


季 刊

生 活

第 7 号



Quarterly: SEIKATSU 7

Issue: Future

生活工房
Lifestyle Design Center

フューチャー

2020

10・11・12

未来の民具 しめかざり

新しい年の福を授けるトシガミを迎えるために、
年末から年始にかけて家々を彩る「しめかざり」を
20年に渡り収集・研究してきた森須磨子さん。

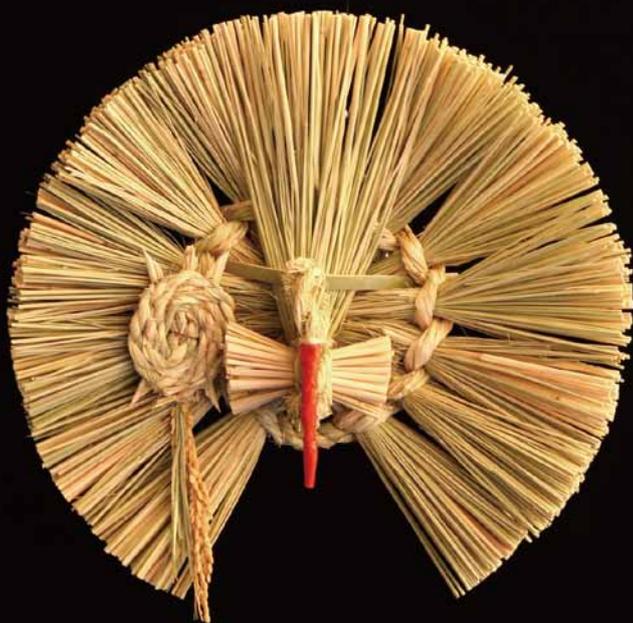
11月から生活工房で開催される展覧会に先駆けて、
しめかざりの魅力について話を伺いました。

text: Katsuhiko Sugimoto

季節は夏から秋へと移り、
早いもので2020年も残すところ
あと数ヶ月となりました。

季刊生活 第9号の特集は、
少しづつ冬が近づき、
年の涯を意識し始める頃に
開幕する展覧会『渦巻く智恵』
未来の民具 しめかざり』を
紹介します。

2020年の締め括りに、
2021年という未来に思いを
寄せながら、
今号の『生活』をお楽しみください。



福岡県田川郡「鶴」
"Crane," Tagawa County, Fukuoka Prefecture

もくじ Contents

- 03 インタビュー 森須磨子
Interview Sumako Mori
- 08 しんねんよ、こんにちは
- 09 世田谷のおとなりさん⑥
世田谷区経堂のリカさん・トキさん
- 10 生活工房のイベント Event Guide
- 16 生活工房のご案内 Access Guide

cover photo: Sumako Mori

森須磨子(もり すまこ)

1970年、香川県生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科修了。同大学助手を経て、2003年に独立。グラフィックデザインの仕事を続けながら、全国各地へしめかざり探訪を続けている。しめかざり関連の執筆、講座、展覧会企画、監修、メディア出演など活動多数。著書に、たくさんのふしぎ傑作集『しめかざり』(福音館書店)、『しめかざり—新年の願いを結ぶかたち』(工作舎)など。
noteにて「しめかざり探報記」連載中↓



Sumako Mori Born in 1970 in Kagawa Prefecture. Graduated from the Graduate School of Art and Design, Musashino Art University (MAU). Worked as an assistant at MAU before becoming independent in 2003. While continuing graphic design work, she searches for shimekazari throughout Japan. Her many activities include writing, giving lectures, organizing exhibitions, providing supervision, and making media appearances related to shimekazari. Her publications include "Masterpieces of a World of Wonders: Shimekazari" (Fukuinkan Shoten) and "Shimekazari: Formations of New Year's Wishes" (Kousakusha).





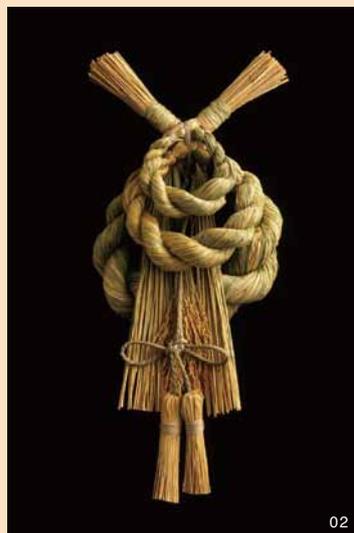
——森さんがしめかざりに関心を持ったのは、大学の卒業制作を考
えている時で、「日本的なるもの」というテーマがきっかけだったそう
ですね？

大学ではグラフィックデザインを学んでいましたが、10代から日本の
なものには興味がありました。今考えると、父親が私を大和撫子にし
たがっていたことが影響しているのかもしれませんが。それで小さな頃
から茶道や華道を習っていましたし、髪もずっとロングでした(笑)。
大学の卒業制作では明治以前・以降で消えた民具、変化した民具を
研究しようと思い、図書館で手にしたのが明治10年(1877年)に初
来日した動物学者エドワード・S・モースの本で、そこにはモースが収
集した日本の民具が紹介されていました。その中にしめかざりも載っ
ていて、明治時代のしめかざりと現代のしめかざりが全然変わってい
ないことにとても驚いたんです。藁でできた造形の面白さや美しさは
もちろん、どうして形も変えずに100年も続いているのか？ここに
自分が求める日本的なるものがあるかもしれないと思い、卒業制作
では家々に掛けられたしめかざりを探して年末の都内を歩き回り、考
現学的にまとめました。それで大学は無事に卒業できたのですが、
私のしめかざり探訪はそこがスタートでした。



グラフィックデザインの仕事をしながら、年末には初詣ついでに近県
のしめかざりを見に行き始めました。するとどの地域も造形が全然違

う。その頃に確認できていたのは20種程度で、日本中でもこの位だ
ろうと想像していたのですが、両親の故郷・四国に行くとまた全然違
う。これはすごいお宝を見つけてしまったと思いましたね。その後、
四国を巡りましたが県ごとに造形はバラバラ。行政区分で変わると
いうよりも、川を挟んで変わる、山を越えると変わるといった感じで、
その面白さたるや。だから、大きな川を渡ると、目を皿にしてしめか
ざりを探しました。それからその全貌を知るべく、行きたい場所を選
び、大晦日を挟んだ1週間の「しめかざり探訪」に出るようになりました。
大晦日前の3日は買うことができ、後の3日はどのように掛けて
あるかを知る。限られた期間でたくさんの地域をめぐるために西村京
太郎のミステリーのように時刻表を駆使しましたね(笑)。そうやって
20年が過ぎ、数百ものしめかざりを見てきましたが、未踏の地もまだ
まだまだたくさんあります。でも、自分でその土地の正月の雰囲気
を味わいたいし、しめかざりをどんな人がどんな風に販売しているかを見たい
ので、人任せにはできないんです。しめかざりは福を授けてもら
うトシガミ様を招くために掛けるもの。それだけの目的のためになぜこ
れだけ種類があるのか？ その理由を知りたいですし、その形が生ま
れるプロセスを知りたいがために続けてきました。



02



03

——探訪を続けて20年、しめかざりを巡る状況に変化がありますか？

しめかざりの作り手が激減していますね。また、道路法の関係もある
ようですが、しめかざりを売る露店もあまり見かけなくなりました。露
店で販売している人が作り手であることも多いので、直接話を聞くこ
とができましたし、買いに来る地元の人に掛け方などの文化がその場
で受け継がれているのを目の当たりにしてきました。今では少なくな
りましたが、農家などでは家ごとに家長が受け継ぎ、しめかざりを
作ってきました。受け継いだままを作るというよりも、自分なりに工夫



04

して、新年への願いや思いを形にしているそうです。しかし現代ではスーパーで販売されることが多くなり、そのような作り手とのコミュニケーションは難しくなりました。



しめかざりにつく紙垂も昔は白のみだったのが、今は紅白のものが増えました。その方が売れるからということのようですが、それは現代において正月自体の意味が変わってきていることにもつながると思います。正月は新年のめでたい日というイメージがあるかもしれませんが、もともとはトシガミ様を迎え、その年の豊穡などを願うお籠りの期間として静かに過ごしていた。それを現代人が踏襲するのは難しいかもしれませんが、正月は少しだけ心を落ち着かせ、「自分」や「自然」に向き合う日にしていくことはできると思うのです。



しめかざりにしても、年末になると習慣的になんとなく掛けている方もいるかもしれませんが、掛ける意味だけでなくその造形に込められた作り手の思いを知ることができれば、しめかざりはもっと「自分ごと」になっていくでしょう。なぜ藁でできているかを考えれば、お米や農家のこと、そして自然環境にまで思いを馳せるきっかけになるかもしれない。そして、自分が1年をどう過ごしてきたか、次の1年をどう過ごしたいかということに思いを馳せるきっかけにもなるかもしれない。今回の展覧会は、しめかざりに込められた先人の「智恵」を解きほぐし、現代生活に再提案する試みです。そうすることで、しめかざりはトシガミ様を迎えるためだけでなく、未来を見つめられる、これから必要な民具になると思っています。

(2020年7月2日、生活工房にて)

新年の福德を授けるというトシガミを迎えるため、日本各地で製作されてきた「しめかざり」。生活様式の変化にともない、近年では本来の意味から離れ、年末年始を彩る手軽な装飾として用いられることも多くなりました。

しかし、しめかざりの造形には想像以上の多様性・地域性があり、一つ一つに作り手の「想い」が込められていることは意外と知られていません。そんなしめかざりに魅せられたグラフィックデザイナーの森須磨子さんは、この20年ほど「しめかざり探訪」として日本中を歩いてきました。

本展では、森さんがこれまでにリサーチしてきた様々なしめかざりの中から約100点を展示紹介します。風土に根差した素材やかたち、そこに込められた先人の智恵を探り、現代に生かせる「未来の民具」としての可能性に光を当てます。



●渦巻く智恵 未来の民具
しめかざり

11.28 (sat) ~ 12.27 (sun)

10:00 ~ 18:00

入場無料 月曜休み

会場：生活工房ギャラリー、
ワークショップルームA・B



Shimekazari are rice straw rope decorations that have been made all throughout Japan. They are intended to welcome Toshigami, a New Year's god that is said to bestow fortune for the new year. With the changes in lifestyle, nowadays many people put up shimekazari as a New Year's decoration that deviates from their original meaning.

Little is known that shimekazari has more shapes and regional characteristics than imagined, and that each and every shimekazari embodies the hopes and wishes of the creator.

Captivated by shimekazari, graphic designer Sumako Mori has spent the past two decades traveling all around Japan looking for and studying shimekazari.

This exhibition displays about 100 of the various shimekazari she has researched. The exhibit explores their materials and shapes rooted in local culture and the wisdom of our ancestors that went into their creation. It shines the spotlight on their potential as "future folk implements" that can be leveraged in the modern era.



- | | |
|-------------------|---|
| 01 埼玉県児玉郡「お顔隠し」 | 01 "Face Cover," Kodama County, Saitama Prefecture |
| 02 広島県広島市「宝珠」 | 02 "Wish-fulfilling Gem," Hiroshima, Hiroshima Prefecture |
| 03 岡山県岡山市「メガネ」 | 03 "Eyeglasses," Okayama, Okayama Prefecture |
| 04 鹿児島県鹿児島市 | 04 Kagoshima, Kagoshima Prefecture |
| 05 岐阜県高山市「蛇」 | 05 "Snake," Takayama, Gifu Prefecture |
| 06 宮城県気仙沼市「ホシノタマ」 | 06 "Hoshinotama," Kesenuma, Miyagi Prefecture |
| 07 京都府京都市「ちょうげん」 | 07 "Choroken," Kyoto, Kyoto Prefecture |
| 08 三重県伊賀市「エビス馬」 | 08 "Ebisu Horse," Iga, Mie Prefecture |
| 09 宮城県栗原市「三宝様」 | 09 "Sanposama," Kurihara, Miyagi Prefecture |
| 10 福島県会津若松市「ケンダイ」 | 10 "Kendai," Aizuwakamatsu, Fukushima Prefecture |
| 11 福島県会津若松市「ケンダイ」 | 11 "Kendai," Aizuwakamatsu, Fukushima Prefecture |
| 12 山形県酒田市「俵じめ」 | 12 "Straw Bale," Sakata, Yamagata Prefecture |

コラム しんねんよ、こんにちは

slave of plants T-154-0021 東京都世田谷区豪徳寺1-45-10 1F Tel: 03-6936-3277



作家の
まちだ美穂さんが
豪徳寺で見つけたのは、
個性的なカタチと色を纏った
塊根植物でした。
不思議な魅力を放つ
植物の世界を紹介します。

text and illustration:
Miho Machida

私は綺麗と異常の
狭間のギリギリ綺麗
側にあるものが最強
だと思っている。
それは時にクレイジ
ーで少し気持ちが悪
いけど、とても新
鮮で未知の可能性
を秘めているように
感じるから。
これは私の信念で
ある。

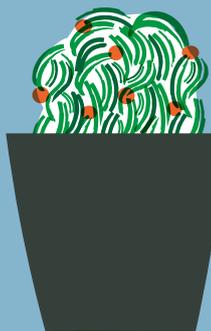


豪徳寺のSLAVE OF
PLANTSには、そんな
キモ美しい植物がたく
さん並んでいる。

私はトックリランとい
う植物を一つ連れて帰
った。

トックリランはその名
の通り徳利のように幹
の根元がぶくっと膨ら
んでいて細長い葉が自
由奔放に垂れ下がって
いる。

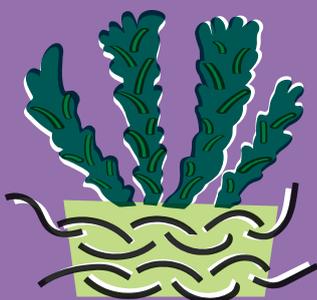
部屋に飾った自分の
信念を眺めながら今日
も私は心を整える。



まちだ 美穂

作家。日常で感じた心
が踊る瞬間を、お花や
植物のパターンで表
現している。楽しいコ
ミュニケーションが生
まれるようなものづく
りを目指す。

<https://machidamiho.amebaownd.com>



連載コラム 世田谷のおとなりさん⑥

リカさん・トキさん ある日のおにぎり



世田谷区経堂のリカさん、トキさん親子は、経堂駅近くの住居兼ギャラ
リーで暮らしています。2013年、リカさんは『HITOMARUICHI ART
GALLERY』をオープンしました。「20代の時からお店がやりたいと思
っていました。でも趣味が旅行だから、これまでの経験を活かして、不
定期で休めるギャラリーを始めました」。

その後、2015年に誕生したトキさんとこの場所で生活しながら、年間
10本近くの展覧会を開催しています。「ここは展示だけではなく、近所
の方との食事会をひらいたりします。だから、娘にはたくさんの大人
のお友達がいるようです(笑)」。

最近のトキさんは、ギャラリーを訪れる大人に「将来は何になりたいの?」
と、質問するのがマイブームです。「老後のことではないようだから、私
も含めてみんなハッとさせられます。5歳には未来しかないから、すご
いなって」。今回、初めておにぎりを握ったトキさん。その隣で、リカさ
んが食事会の定番おにぎりを手際よく握っていました。

将来の質問にリカさんは親子で食堂を
やってみないかと提案しました。最近
は2人でメニューを考えながら、新た
なお店について少しだけ夢をみてい
ます。



photo: Ruri Kochi

〈リカさんのレシピ〉

- ・お米...2合
- ・かぶの葉...4個分
- ・ちりめんじゃこ...大さじ3~4
- ・だしパック...1コ
- ・みりん・しょうゆ・酒...大さじ1
- ・いりごま...小さじ2

漬物の葉も
オススメ



トキさん作
(具材はタラコ)

〈つくり方〉

かぶの葉は幅5mm~1cm程度に
細かく刻みます。フライパンにかぶの葉と酒を入れ、
細かく刻みます。フライパンにかぶの葉と酒を入れ、
強めの中火にかけて、ふたをしてしばらく熱します。
ふたを開けたら水分を飛ばすようによく混ぜ、
弱めの中火で1分ほど炒めます。
だしパックの中身とみりん・しょうゆを加えて炒め、
ちりめんじゃこといりごまを入れたら具材は完成。
炊き立てご飯に冷ました具材を
混ぜ合わせ、握ります。



ワークショップ／セミナーの申込方法

- 生活工房ホームページ：各プログラムページの申込フォームからどうぞ↓
 - 電話：03-5432-1543
 - 往復ハガキ：希望イベント名・希望日時・住所・氏名（ふりがな）・電話番号を明記の上、下記宛先まで
154-0004 世田谷区太子堂4-1-1キャロットタワー 生活工房宛
- ※新型コロナウイルス感染状況により、内容に変更が生じる場合があります。
※大変お手数ですが、来場前に生活工房ホームページ内Top Newsをご確認ください。



Exhibition

世田谷アートフリマつながり展2020

9.12 (sat)～10.11 (sun) 9:00～21:00 入場無料
月曜休み（祝日はのぞく）会場：生活工房ギャラリー

春と秋の恒例イベント、「世田谷アートフリマ」——。本展は世田谷アートフリマとゆかりのある作家が集う、猫をテーマにしたグループ展です。2020年4月に予定していた「つながり展」をあらためて開催します。

また、9月19日（土）・20日（日）[10時～17時]には、2003年にはじまった世田谷アートフリマの歴史を振り返る小展示やワークショップ、世田谷区の“非公式”キャラクター「せたがやじん」のグッズ販売も行います。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、秋の世田谷アートフリマvol.34は中止となりました。

企画制作：世田谷アートフリマ実行委員会



作家・高木亮の切り絵
Ryo Takagi, Papercutting

Setagaya Art Flea Market
Tsunagari-ten 2020

Admission Free Closed on Mondays
(2020 exceptions: Sept.21)
Venue: Seikatsu-Kobo Gallery

関連プログラム

（②は有料、世田谷アートフリマホームページより事前申込制）

9月19日(sat)・20日(sun) 10:00～17:00
会場：市民活動支援コーナー

①世田谷アートフリマの歴史を知ろう！

2003年にはじまった世田谷アートフリマの歴史を展示で振り返ります。

②ものづくりワークショップ！

シルクスリープリントのエコバッグやオリジナルポストカード作り、豆本ワークショップが体験できます。

※詳細は世田谷アートフリマ ホームページでご確認ください。

③せたがやじんのグッズ販売！

せたがやじんオリジナル缶バッジやキーホルダーなどを販売します。



Exhibition

第6回世田谷区芸術アワード“飛翔”生活デザイン部門 受賞作品展
未来に伝えるせたがや今ばなし

10.24 (sat)～11.22 (sun) 9:00～21:00 入場無料
月曜休み 会場：生活工房ギャラリー

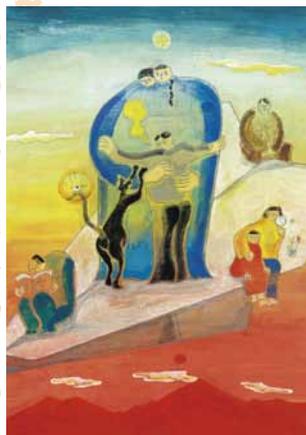
第6回世田谷区芸術アワード“飛翔”生活デザイン部門の受賞者「あの海は山のように」による展覧会。今年4月から始動した「テレ（＝遠隔）ワークショップ」の成果をもとに、作家が紙芝居で現在の〈民話〉を公開制作します。進行形の民話／展覧会をお楽しみください。

企画制作：「あの海は山のように」（主宰：椎木彩子）

The 6th Setagaya Art Award: HISHOU, Lifestyle Design Division
Exhibition of Winning Works

Setagaya's Contemporary Tales to Pass On to the Future

Venue: Seikatsu-Kobo Gallery



プロジェクトのイメージボード（イラスト：椎木彩子）
Project image (Illustration: Saiko Shiiki)

関連プログラム

①ギャラリートーク「今の話」

11.14 (sat) 14:00～14:30
会場：生活工房ギャラリー

企画制作者の椎木彩子さんがコロナ禍で始まった紙芝居の創作について、本展デザイナーの浦川彰太さんを聞き手に、展覧会場で語ります。

講師：椎木彩子（「あの海は山のように」主宰）、浦川彰太（グラフィックデザイナー） 参加費：無料／10名（先着）

申込：9月25日10:00より電話かHP（P10参照）にて

②公開制作

10.31 (sat)・11.7 (sat)・21 (sat) 10:00～16:00
会場：生活工房ギャラリー

会場内の仮設アトリエでワークショップの成果をもとにした紙芝居『未来に伝える今ばなし』の公開制作を行います。

参加費：無料 申込：不要、直接会場へ



photo:Yuki Akase

Seminar第47回世田谷おはなしネットワーク講演会
『サッチャン』の詩人 父・阪田寛夫を語る

10.29 (thu) 10:00～12:00 会場: セミナールームA・B

エッセイストの内藤啓子さんは、童謡『サッチャン』で知られる詩人・阪田寛夫さんの長女として生まれました。懐かしい歌と詩を交えながら、父との思い出や家族のエピソードを語ります。

講師: 内藤啓子 (エッセイスト)
主催: 世田谷おはなしネットワーク
参加費: 100円 / 10名 (抽選)
申込: 10月15日 (必着) までに往復ハガキ (P10参照) にて

The 47th Setagaya Story Network Lecture
Daughter's Talk on Hiroo Sakata,
Lyrist of "Sacchan"

Venue: Seminar Room A・B



『枕詞はサッチャン
一照れやかな詩人、父・阪田寛夫の人生』
内藤啓子 (著)

Keiko Naito, Makurakotoba wa Sacchan:
Tereya na Shijin Chichi Sakata Hiroo no
Jinsei [His Epithet Was Sacchan: The Life
of Hiroo Sakata, a Shy Poet and Father]

Seminar10代に向けたセミナー
OriHimeで会いにゆく
—— 孤独を消すためのテクノロジー ——12.13 (sun) 14:00～16:30 入場無料
会場: セミナールームA・B

「孤独の解消」を目指して開発されたOriHime [オリヒメ] は、遠くはなれていても、会いたい人に会いにゆくことができる分身ロボットです。製作者である吉藤オリィさんに、ロボットが生まれるまでのお話を聞き、実物を使ってデモンストレーションもしていただきます。

講師: 吉藤オリィ (ロボットコミュニケーター)
対象: 10～18歳くらいの方
参加費: 500円 / 会場45名、オンライン参加も募集予定
※詳細は10月下旬に生活工房ホームページでお知らせします。
申込: 11月30日 (必着) までにHP (P10参照) にて

Seminar for Young People Aged 10-19
Meeting through OriHime: Technology for Eliminating Loneliness

Venue: Seminar Room A・B



吉藤オリィ
Ory Yoshifuji

Workshop日常を見限らない
音風景のワークショップ

日常生活の中で見落とされた無数の出来事を、研究者やアーティストと五感を使って味わい直すワークショップ・シリーズ。今回は、聴覚を手掛かりに環境を捉える「音風景 (サウンドスケープ)」にフォーカスし、家の音風景から《わたしの日常》を見つめ直します。

※本企画は全工程にカメラが入り記録映像としてWEB上で後日公開します。

Re-encounter the World
Soundscape Workshop

Venue: Workshop Room A・B



家の音に耳を澄ます
Listening to the sounds of one's home

①Talk「サウンドスケープとの出会い」

11.1 (sun) 11:00～13:00 会場: ワークショップルームA

サウンドスケープ研究の第一人者・鳥越けい子さんに、その用語の成立経緯や意義、建築・まちづくりとの関係について伺い、私たちの生活や暮らしの内実について理解を深めます。

講師: 鳥越けい子 (音風景研究家 / サウンドスケープ・デザイナー)
参加費: 1,000円 / 30名 (先着)
申込: 9月25日 10:00よりHP (P10参照) にて



Keiko Torigoe

②Workshop「日常の音風景」

11.1 (sun) 15:00～17:00、11.21 (sat) 13:00～17:00【2日間完結】
会場: ワークショップルームB

家に点在する記憶や感情に関わる生活の音を集め、《わたしの日常》の音風景を言葉とともに綴る音日記を作成し発表・共有します。また講師が各々の音日記から10名分の《あなたの日常》音楽を作ります。

講師: 永田壮一郎 (音楽家 / 作曲家)、鳥越けい子
対象: 高校生以上。録音&写真機能付端末 (携帯電話やタブレット等) をお持ちで、音声&画像ファイルをメール添付で送信できる方
参加費: 2日間で2,000円 / 10名 (先着)
申込: 9月25日 10:00よりHP (P10参照) にて



永田壮一郎さんによる曲づくり
Music composition by Mr. Soichiro Nagata

Exhibition

渦巻く智慧 未来の民具

しめかざり

11.28 (sat) ~ 12.27 (sun) 10:00 ~ 18:00 入場無料 月曜休み
会場: 生活工房ギャラリー、ワークショップルームA・B

しめかざり研究家の森須磨子さんがリサーチしてきた日本各地のしめかざり約100点を展示紹介し、風土に根差した素材やかたち、そこに込められた先人の智慧を探ります。

Swirling of Wisdom, Future Folk Implements
Shimekazari

Admission Free Closed on Mondays
Venue: Seikatsu-Kobo Gallery, Workshop Room A・B



静岡県御殿場市「ブッチガイ」
"Bucchigai," Gotemba, Shizuoka Prefecture

Seminar

朗読講座 豊かなことばの世界

①水曜講座 (午前・午後) 〈楽しい朗読〉

12.2 (wed)・9 (wed)・16 (wed)・23 (wed)

各回10:30~12:30 / 13:30~15:30

講師: 岩井正 (NHK日本語センター) 作品: 斎藤隆介著『花さき山』

②木曜講座 (午後) 〈はじめての朗読〉

12.3 (thu)・10 (thu)・17 (thu)・24 (thu) 各回13:30~15:30

講師: 高橋淳之 (NHK日本語センター)

作品: 武田百合子著『ことばの食卓』

③金曜講座 (午後) 〈はじめての朗読〉

12.4 (fri)・11 (fri)・18 (fri)・25 (fri) 各回13:30~15:30

講師: 金野正人 (NHK日本語センター) 作品: 荒木源著『オケ老人!』

会場: セミナールームA

ことばの持つ豊さ、力、輝きを「朗読」を通して体感します。
NHK日本語センターアナウンサーが講師となり、声の出し方、読み方などを丁寧に指導します。

受講料 (4回分): 一般20,800円、せたがやアーツカード会員18,800円 / 各クラス15名 (申込先着) ※応募者僅少のため、閉講になる場合があります。

問・申込: (一財) NHK放送研修センター

Tel 03-3415-7121 (受付時間9:00~18:00) <http://www.nhk-cti.jp/>

Recitation Course: A World of Abundant Words

① Wednesday Course (morning - afternoon): Enjoyable recitation

② Thursday Course (afternoon): Beginners recitation

③ Friday Course (afternoon): Beginners recitation

Venue: Seminar Room A

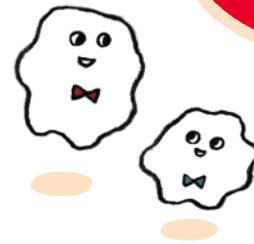
おたごね工房

〈生活工房スタッフからの回覧板〉

計画中の展覧会やイベントに情報提供いただける方を探しています。
ご協力内容の詳細は、電話・返信でお伝えします。
ぜひ、お気軽にご連絡ください。

みんな! ホームページの生活工房マガジンはみてくれたかな? NEWコンテンツなんだよ! チェックしてね。

世田谷区内の“私設”図書館の思い出があれば教えてほしいなー。来年冬の展覧会で紹介するかも!



クラシー (左) カワルン (右)
生活工房ワークショップルームA・コミュニティキッチンをめぐらに、生活工房内をただよみながら探検している妖精。おもしろそうなイベントがあると、ふわふわと姿をあらわします。
illustration: にしほりみほこ

ご連絡先

メール info@setagaya-ldc.net

電話 03-5432-1543



季刊生活とは

もし、みえない誰かの生活と、ここで偶然出合ったら、
そこから、何が読めるでしょうか?

何もないようで、いつも何かが起きている。

季刊生活はあなたと誰かの日常を、

行ったり来たりする回覧板です。

If you happen to encounter the unseen life of another,
what, then, would you discover?

It may feel like nothing,
but something is always happening.

Seikatsu Quarterly is like a bulletin board,
traveling back and forth between your daily lives.

季刊生活
第7号

発行日: 2020年9月15日
編集: 生活工房 石山那緒子
編集協力: 杉本勝彦
デザイン・編集協力: 牧寿次郎
翻訳: 株式会社インターブックス
印刷: 株式会社八紘美術
発行: 公益財団法人せたがや文化財団 生活工房

Quarterly:
SEIKATSU 7

Issue date: September 15, 2020
Editor: Lifestyle Design Center Naoko Ishiyama
Editing Cooperation: Katsuhiko Sugimoto
Design, Editing Cooperation: Jujiro Maki
Translation: Interbooks Co., Ltd.
Printing: Hakkou Bijyutsu Co., Ltd.
Issued by Lifestyle Design Center, Setagaya Arts Foundation

生活工房のご案内

※開館状況など詳細は
ホームページでご確認ください。

生活工房は

世田谷区が設置したユニークな文化施設です。
デザイン、文化、環境などをテーマに、
展示やイベントを開催しています。
また、コミュニティ・キッチンをはじめ、
展示、ワークショップ、セミナー、ミーティングなどに
利用できる部屋の貸出を行っています。

The Lifestyle Design Center is

a unique cultural facility established by Setagaya city.
Exhibits and events are held on themes of design, culture, environment, etc.
We have a community kitchen and rooms for exhibits, workshops,
seminars, and meetings available to rent.



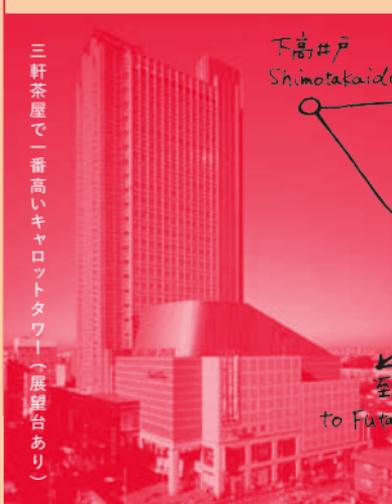
生活工房 キャロットタワー 3~5F
Carrot Tower 3-5F

アクセス

- 東急田園都市線「三軒茶屋」駅 三茶パティオ口 徒歩5分
地下通路より1F入口またはB1F入口（東急ストア入口の右隣）に
入り、キャロットタワー内のエレベーターをご利用ください。
- 東急世田谷線「三軒茶屋」駅直結
- 東急・小田急バス「三軒茶屋」停留所そば

Access

- Tokyu Den-en-toshi Line: 5-minute walk from the Sancha Patio exit at Sangenjaya Station
Subway passage: 1F or B1F entrance, take the elevator inside Carrot Tower
- Tokyu Setagaya Line: Directly connected to the Sangenjaya Station
- Tokyu Bus, Odakyu Bus: Located near the Sangenjaya Station stop



お問い合わせ (公財) せたがや文化財団
世田谷文化生活情報センター

生活工房

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
Tel. 03-5432-1543 Fax. 03-5432-1559
Mail. info@setagaya-ldc.net

Contact

Lifestyle Design Center

Setagaya Arts Center
Setagaya Arts Foundation

Carrot Tower, 4-1-1 Taishido,
Setagaya-ku, Tokyo, 154-0004

<https://www.setagaya-ldc.net>

